

肥満女性は尿酸値も注意

肥満の女性は高尿酸血症を合併していると心血管疾患（心筋梗塞や脳卒中など）のリスクが大幅に増加することが、国立病院機構京都医療センターなどのグループの研究で分かった。メタボリック症候群の基準となる高血圧、高血糖、脂質代謝異常（高脂血症）だけでなく、尿酸値も気をつける必要があるという。（稲庭篤）

京都医療センターなど研究

それぞれ5年間の追跡調査を実施し、血液などの検査結果や高血圧や高尿酸血症などの健康障害と、心血管疾患発症との関連を調べた。

肥満は、高血圧や喫煙、糖尿病などとともに動脈硬化を起す危険因子で、心臓病などのリスクを高め

れぞれ5年間の追跡調査を実施し、血液などの検査結果や高血圧や高尿酸血症などの健康障害と、心血管疾患発症との関連を調べた。

ともと高尿酸血症が多い男性の肥満症は当然ながら、これまで頻度が低いため注目されづらかった女性も尿酸値には気をつけて早めに医師に相談してほしい」と話している。

高値は心血管疾患危険高く

グループは、同センター臨床研究センター内分泌代謝高血圧研究部の浅原哲子部長、若林大研究員らと健康科学大、奈良県立医科大学など、京都医療センターを中心に全国10施設で2005年から07年にかけて20、80歳の肥満の人（BMI25以上）450人を登録。そ

る。痛風や腎障害の原因となる高尿酸血症も心疾患のリスクを高めると考えられているが、関連の詳細は不明だった。

今回の研究によると、女性の肥満症患者で初期の血清尿酸が高値（6.0〜11.0mg/dl）であることは以降5年間の心血管疾患発症

独立した危険因子の一つであることが初めて明らかになった。浅原部長は「健診結果でメタボ項目の血圧や血糖、コレステロールの値を気にする人は多いが、尿酸値は見逃しがち。心血管疾患のリスクが分かる値と

高尿酸血症 血液中の尿酸値が高いと尿酸塩沈着症（痛風関節炎、腎障害、尿路結石など）を引き起こす。血清尿酸値が7mg/dl以上は高尿酸血症と診断され▽以前に痛風関節炎や痛風結節を発症した患者▽8以上で合併症（腎障害、高血圧、糖尿病、肥満など）が伴う患者▽9以上の患者一には薬物療法を検討する。

尿酸値は6以下を保つことが望ましいとされ、魚卵やレバーなどプリン体の多い食物が多い食事や大量飲酒を控えることが推奨されている。肥満症患者は高率で高尿酸血症の合併がみられ、食事療法と運動療法による体重減少で尿酸値が改善したことが報告されている。京都医療センターなどによる今回の研究では、肥満症患者の高尿酸血症合併率は男性で38.6%、女性で7.3%だった。

メタボリック症候群 日本では、内臓肥満（腹囲が基準）で、「高血圧」「高血糖」「脂質代謝異常」のうち二つが該当するとメタボリック症候と診断される。動脈硬化の危険因子が重なり、心臓病や脳卒中などになりやすい。生活習慣病の予防を目的に、40〜74歳を対象とした特定健康診査（メタボ健診）と、特定保健指導（メタボ脱出）が行われている。

肥満症 肥満の人（BMI25以上）のうち「肥満の診断に必要な健康障害」＝下記＝を合併していれば肥満症と診断される。健康障害を伴っていないことも内臓脂肪型肥満と診断されれば肥満症となる。減量のために食事療法、運動療法から始め、改善しなければ薬物療法も必要となる。

肥満症の診断に必要な健康障害

- ①耐糖能障害（2型糖尿病・耐糖能異常など）
- ②脂質異常症
- ③高血圧
- ④高尿酸血症・痛風
- ⑤冠動脈疾患（心筋梗塞・狭心症）
- ⑥脳梗塞・一過性脳虚血発作
- ⑦非アルコール性脂肪性肝疾患
- ⑧月経異常・女性不妊
- ⑨閉塞性睡眠時無呼吸症候群・肥満低換気症候群
- ⑩運動器疾患（変形性関節症：膝関節・股関節・手指関節、変形性脊椎症）
- ⑪肥満関連腎臓病

日本肥満症学会「肥満症診療ガイドライン2022」(<http://www.jasso.or.jp/contents/magazine/journal.html>)より